

出場人数における対局回数設定についての細則

北海道高等学校文化連盟将棋専門部

※以下、全て決勝ラウンドで最終確定順位とする。選手番号は事前に専門委員により厳正に抽選し決定する。

〈6名(6校)以下の場合〉

- ・総当たり戦を行う。
- ・同じ勝ち数者が2名の場合は、直接対決勝利者を上位とする。3名以上で直接対決の判断が出来ない場合は選手番号の小さい者を上位とする。

〈7名(7校)の場合〉

- ・スイス式トーナメント4回戦を行う。
- ・最終成績で同ポイントの選手(表彰にかかわる)が2名の場合は、直接対戦の結果での勝利者を上位とする。直接対決をしていない場合は直接対戦を行い順位決定する。
- ・最終成績で同ポイントの選手(表彰にかかわる)が3名以上の場合は、選手番号の小さい者を上位とする。

〈8名(8校)以上の場合32名(32校)以下まで〉

- ・スイス式トーナメント5回戦を行う。
- ・最終成績で同ポイントの選手(表彰にかかわる)が2名いた場合は、直接対戦の結果での勝利者を上位とする。直接対決をしていない場合は選手番号の小さい者を上位とする。
- ・最終成績で同ポイントの選手(表彰にかかわる)が3名以上の場合は、選手番号の小さい者を上位とする。

〈33名(33校)以上の場合〉

- ・64名(64校)までは6回戦、65名(65校)以上は7回戦のスイス式トーナメントを行う。
- ・最終成績で同ポイントの選手(表彰にかかわる)が2名いた場合は、直接対戦の結果での勝利者を上位とする。直接対決をしていない場合は選手番号の小さい者を上位とする。
- ・最終成績で同ポイントの選手(表彰にかかわる)が3名以上の場合は、選手番号の小さい者を上位とする。

※附則事項

- ①同校選手の不对戦について16名までは設定をしない。
- ②17名以上の場合、スイス式トーナメント5回戦は1回戦まで、同じく6回戦、7回戦は2回戦まで同校選手の対戦を避けることを原則とする。なお、スイス式対戦の組み合わせが出来ない場合はこの原則を除外する。これは高校竜王戦北海道大会と全道新人大会に適用するものとする。
- ③欠席者がいた場合はその時点での出場数に合わせた対戦とする。
- ④全道高校将棋選手権については別途大会要項に規定する。

平成26年(2014年)10月17日制定

平成31年(2019年)2月15日一部改訂

入玉宣言法のルールについて

北海道高等学校文化連盟将棋専門部

〈宣言方法〉

- ①宣言しようとする側の手番で手を指さずに「宣言します」と言う。
- ②対局時計を停止させる（秒読み中は、時間切れ前に宣言し、対局を終了する）。

宣言の局面で以下の必要条件を全て満たしていた場合、宣言側の勝ち。1 つでも欠けた場合は宣言側の負けとなる。

〈必要条件〉

- ①宣言側の玉が、敵陣三段目以内に入っている。
- ②先手の場合、28点以上の持ち点がある。後手の場合、27点以上の持ち点がある。

ただし、点数の対象になるのは、玉を除く宣言側の持ち駒と敵陣三段目以内に存在する駒のみである

(大駒5点 小駒1点)。

- ③宣言側の敵陣三段目以内の駒は玉を除いて10枚以上存在する。
- ④宣言側の持ち時間が残っている(秒読みの場合は切れていないこと)。
- ⑤宣言側の玉に王手がかかっていないこと(詰めろ、必死は関係なし)。

平成30年（2018年）11月2日より施行